

CHATEAUNEUF-DU-PAPE 2019

色合いもストラクチャーも文句なしの素晴らしいヴィンテージ

2018 年春先は降り続ける雨に悩まされましたが、2019 年春は平年並みの降雨量となりました。
(2018 年の 280 mm に対し、96 mm)

昨年のべと病との苦い思い出があるため、生産者たちはブドウが芽吹き始めるシーズン最初から大きな注意を払ってきました。しかし 2019 年は、衛生面においては問題はほぼ見られませんでした。代わりに 6 月末からの猛暑とその後続いた非常に暑く乾燥した夏が記憶に残ったといえます。

収穫は、早熟なブドウについては過熟を避けるために早い時期に行われました。その作業は全体的に落ち着いた良いコンディションで行われました。9 月 18 日に降った雨は収穫量を向上させ、ブドウの味わいのバランスを整えてくれました。ブドウは完璧な衛生状態で収穫されましたが、シャトーヌフ・デュ・パップ 2019 の赤は濃厚な色合いでなめらかで豊かな味わいに、白はふくよかで口中の余韻の長い仕上がりとなりました。

乾燥した猛暑の年

2018 年秋から冬にかけての雨(460 mm)は、地中に十分な水分をもたらし、翌春の芽吹きは早くに進みました。4 月と 5 月は比較的涼しく、それまで活発だった植物たちの動きが鈍りました。このような状況は不結実のリスクが心配されますが、幸いなことに 2019 年はいくつかの区画で不定期にみられたものの、大きな被害は免れました。植物成長期は非常に乾燥し、観測された降雨量は 158 mm のみでした。(2018 年の降雨量は 530 mm、2016 は 230 mm、2017 は 185mm)。6 月 1 日から 9 月 15 日までの間は 10 日のうち 7 日間は 30 度を超えるとても暑い日が観測されました。特に 6 月末には 1 週間の猛暑がこの地方で続き、6 月 28 日にはカルパントラ市で 44.3 度にもなりました。

このような極端な気候に対して、ブドウの葉の状態は悪くなく、南仏ブドウ畑の一部地域で見られた『ドライヤー現象』を、ローヌ渓谷では免れたといえます。水不足の影響は、ブドウの実の成長状態に見られました。粒がなかなか大きくなり、色付きが終わる頃に時折降った雨のおかげでようやく成長が進みました。このように乾燥していましたから、畑内の病気など衛生面での心配事はほとんど見られませんでした。

収穫では、衛生状態はとてもよかったのですが、ブドウの水分(ジュース)量は非常に低いものでした。9 月 18 日に 15 mm の恵みの雨が降り、グルナッシュはそのフェノール成分が良い状態まで熟しました。その結果は、ぶどうの厚い皮と濃厚な色合い、とても美しいピュアなアロマに見られました。最終的な収穫量は、ここ過去数年の平均値からするとやや上がりました。

色合いとなめらかさ、高いポテンシャル

シャトーヌフ・デュ・パップ白はエキゾチックでピーチや柑橘類を思わせる香りがあがります。口中では、豊かな広がりがあり、余韻も長いです。赤、特にグルナッシュ主体のものは、長期間のマセラシオンが求められました。よく熟した果実、フランボワーズや砂糖漬けジンジャーのアロマが感じられます。シラーには、ミント香が上がります。口中で感じられるタンニンはエレガントでソルティー、ほどよい凝縮感があり、酸味は控えめです。マセラシオン直後のアッサンブラージュの時点でとても素晴らしい印象を受けました。2019 年はとても素晴らしい熟成ポテンシャルを持ったヴィンテージと言えます。



私たちの今後のイベント予定は、ワインパリ(2020 年 2 月 10-12 日)、プロヴァイン(2020 年 3 月 15-17 日)、
そしてもちろん第 11 回目の Printemps de Châteauneuf du Pape (2020 年 4 月 3-5 日)となります。